

(公財) 米盛誠心育成会だより 第28号

コロナ禍の令和2年

理事長 米盛庄一郎



昨年12月から中国武漢にて原因不明のウイルス性肺炎の患者が相次いでいましたが、令和2年の1月には日本でも初めての感染者が確認されて11月には国内での感染者が累計13万人となり、鹿児島でも5百人と増え続けています。世界では感染者が5千7百万人を超えて、死者は130万人をオーバーし、終息の気配はありません。これから本格的な冬を迎え、インフルエンザと共に流行が心配されます。世界の経済はコロナ禍の中、経済と感染防止で対応に苦慮しています。

米盛誠心育成会の事業は理事、評議員、監事の皆様の支援の下、順調に進められており、奨学金事業、研究支援金給付も現在滞りなく行なっております。しかしながら財団の運営は基本財産の運用によるもので、世界経済の悪化が今後影響しないかと心配しているところです。ただ、ワクチン予防薬の開発に明かりが見えてきたとの朗報も入ってきています。早い投与が望まれます。

コロナ感染は人間関係までも悪化させます。三密を避け、令和2年の年末が無事に迎えられることをお祈りいたします。

令和元年度奨学生終了式・進路

3月、5名の奨学生が卒業しました。それぞれの進路でなお一層、ご活躍ください。進路先は次のとおりです。

- ▽進級：鹿児島工学院専門学校同校専攻科へ、鹿児島工業高等専門学校鹿児島大学工学部へ
▽就職：鹿児島工業卒日産自動車(株)へ、鹿児島大学卒(株)サンケイビルテクノへ

令和2年度奨学生採用通知書交付式

奨学金受給希望者の中から、所属学校等の推薦書及び選考委員による面接の結果、4名が決定され5月23日採用通知書の交付式を行いました。

鹿児島工業高校1名、鹿児島工学院専門学校2名、鹿児島大学留學生1名。

米盛理事長から採用決定書の交付と祝辞があった後、選考委員の竹元理事、先輩奨学生の徳田さんからお祝いや励ましの言葉をいただきました。



財団発足以来の採用者は、386名になりました。



竹元理事



徳田さん



令和2年度採用の奨学生の皆さん(後列右から4名)

財団新役員の方々が選任されました

公益財団法人制度改革に伴い平成24年4月公益財団として移行から8年経過しました。役員任期の厳格化に伴い、令和2年6月18日開催の定時評議員会終了時で任期満了となったことから、今期の理事、監事、評議員に次の方々を選任されました。なお、開催された役員会で新たに理事長、評議員会会長も選任されました。

- ◇理事長：米盛庄一郎
◇常務理事：米盛司郎
◇評議員会長：宇都幸雄



Table with columns for Board Members (評議員) and Officers (理事), listing names and professions.

令和2年度研究助成金交付団体が決定

今年度の研究団体への助成金は、次の4団体(270万円)に決定し、7月10日鹿児島大学において、米盛理事長から各団体代表者へ助成金目録の贈呈を行いました。また、昨年度からの継続分3件には160万円が決定し、今年度の助成金総額は430万円となりました。

- *鹿児島在来カンキツの特性解明とその高度利用化の促進
*鹿児島在来カンキツ研究グループ
*パラコート中毒症状軽減に効果的な抗酸化物質の探索
*鹿児島大学工学系 有馬一成准教授
*鹿児島伝統包丁の工学的検討と発展的展望の検討
*鹿児島伝統包丁調査会
*3Dレーザースキャニングによる樹形点群データを用いた森林資源の活用促進に

関する基礎的研究 (鹿児島大学工学系 鷹野准教授)



鹿児島大学学長室で贈呈式

奨学生からの便り(抜粋)

鹿児島工業高校2年 南野愛莉
奨学金のご支援をいただけたことになりうれしい気持ちです。

私は将来インテリアプランナーになるために日々学校の授業を通して基礎から学んでおります。インテリア計画で学ぶ内容はとても面白く、もっと知りたいと思う事ができる教科です。最近では、インテリアの造形と心理という分野を学びました。なるほどと納得したり、共感したり、楽しみながら授業を受けております。また、どの教科においても積極的に授業へ参加し、新しい知識や知恵をどんどん身に付け、資格や検定の取得にも力を入れていきたいです。

学習面だけでなく、生活面でも奨学生として責任と自覚のある行動をとりたいたいと思います。明るく元気な挨拶を徹底し、丁寧な言葉遣いや正しい敬語を普段の生活から使う事を意識して生活し、良き社会人になるための準備を怠らないようにします。ご支援をくださった全ての方々には心より感謝いたします。

で勉学に励んでいます。学校の授業の一環で近代建築家を調べる事があり、興味がある建築物をまとめるというものがありません。1年次ではただひたすらに試験や資格のためだけに勉強していたのですが、自分の良いと思うことが明確化されていくことで、進路も徐々に見えてきました。これからも、しっかりと自己を見つめインターンなどを重ね決めていこうと思います。

現在は、淡路島の主宰する建築学生コンペに取り組んでいます。学校の授業のみでは建物の細かい部分より、建築士取得のための内容がメインですが、コンペに取り組むことで更に深い建物の意味や考え、あり方まで考えることができます。

米盛誠心育成会の奨学生に採用して頂いたお陰で、学業にもより一層身が入り、家庭も安定し、きちんと未来を見据え行動することができています。奨学生として恥ずかしくないようしっかりと精進してまいります。

鹿児島工学院専門学校2年 島山愛華

奨学生に採用され学習に對し意識も高くなり、現在未来こども園建築デザインコンペ活動で頑張っています。テーマは「世界を守るこども園」。私はクラス4人でチームを組み参加しています。4人で考えることで様々な発想が生まれ、時には意見の違いもありましたが試行錯誤しながら作成しました。締切が近づくことで、焦りもありましたが冷静になりしっかりと自分達の作品を作成します。

建物で児童は海と聞きどのような生き物を想像するか考え、児童にも大人にもわかりやすくしました。テーマにそって私達が考えたのは海の象徴とされ哺乳類の中でもとても大きな存在である海のクジラです。クジラの中は管理室の入口側を波のようにし、児童の教室は0.5歳と年齢を重ねるごとに角を増やし、三角形から四角形へと形も工夫しました。今は最終仕上げの作業をCADやイラストレーターなどを使い作成しています。学校でのテストもあり多忙ですが、どちらも気を抜かず最

後までしっかりと力を入れ今後にも生かしていただけるようにしたいです。

鹿児島大学院3年 景徳(中国山西省)

採用交付式で米盛理事長のお祝いの言葉や選考委員から「鞭撻の言葉をいただき、奨学金で今後の研究や生活を応援していただけるのが嬉しく、どのように奨学金を利用することで研究をさらに進めていくかということについて真剣に考えています。博士後期課程3年に進学して毎日忙しい生活ですが、毎日5時間以上を利用して、文献の比較や出典を調べています。今後も薩摩藩侍医「曾槃」という人物の学問的な研究をさらに深く掘り下げ研究したいと思っています。

これまで曾槃の著書『薬圃摘餘』の所在について確認し、文献調査等によって、東京医科大学が所蔵する『薬圃摘餘』の題箋「春山舎秘笈」という文字の意味が理解できました。

曾槃の門人の高木春山は曾槃に本草を学び、『本草図説』約200巻を作成しました。『本草図説』は現在岩瀬文庫に所蔵され、日本博物学史の白眉だと思われています。曾槃の代表作『本草綱目纂疏』の写本の中に使う和紙に書いた「春山舎藏」の字を通じて、曾槃と門人高木春山の関係に関わりが明らかになりました。今後ともより一層勉学に励み、社会に貢献できる人間を目指します。

継続奨学生からの便り(抜粋)

隼人工業高校2年 泊のののか



財団奨学生として2年目になる今年の目標は、勉強の方では家庭での予習や復習はもちろん、日頃から授業や宿題を真面目に取り組み、その時点で分からないことがあれば聞いたり調べたりなどして、テスト前にバタバタと勉強をすることのないようにしたいと思っています。その他にも授業では積極的に自分の意見を発言して、また周りの人から少しでも尊敬してもらえような一年にしたいです。

米盛誠心育成会から奨学金を頂いている以上、将来のために今頑張らないとい

う意識をもって過ごしていきたいと思

今、新型コロナウイルスの影響で学校も休校となり、いつも通りの生活ができない状況ですが、こんな時にでもできることがあるのではないかと、今しておかなければならないことを探したいと思っています。

また、6月には何個か検定も控えています。思い通りに勉強ができていない状況で、学校の先生に教えてもらわないと分からないことが多く合格できるのか正直不安な部分もありますが精一杯頑張りたいと考えています。

鹿児島大学院2年 徳田優志

新型コロナウイルスの影響で、開催予定だった行事の多くは中止となり、世界中の都市で外出自粛が要請されたことにより、大きな経済損失やオンライン上での活動が盛んになったことで職場や教育の場が場所制約されないようになりはじめています。

社会に出る前にこのような状況になるとは想像もしていませんでしたが、学生という立場でこの状況を迎えたので、ある程度今の社会状況を俯瞰してみることでできた部分では良かったと感じております。

修士2年となり、大学院での授業や研究活動はリモートで既に始まっていますが、様々な活動に追われるような昨年度と比べると比較的ゆったりとした日々を送っていたので、溜まっていた本を読んだり、建築について沈黙考する時間が取れたのは良かったと思っています。大学での最後の一年間、悔いの残らないよう全力で取り組みとともに、今後の建築を考える上で良い意味で時代の変換点となるようにコロナ後の建築について考えていきたいと思っています。

鹿児島大学院1年 孟卓然(中国内モンゴル)

奨学金をいただくようになり一年が経ちました。留学生活の不安や経済的負担が軽減されただけではなく今では学業に集中して

取り組んでおります。

昨年は修士課程を卒業し、博士課程に入学したことで、将来のやりたいことも徐々に明確になり迷わず進めるようになった一年でした。今年も研究の計画を立てて、さらに言語調査を進めたいと考えておりましたが、コロナウイルスのことで2020年の計画が崩れてしまいました。

2月にかけて中国の感染が急速に拡大した時期、帰国の予定もキャンセルすることになりましたが、日本での毎日は国内の家族を心配し、コロナウイルスに関する新聞や情報により不安な毎日を送っていました。日本でも流行し始め、ステイホームでも外にも出れなくて、落ち込んだ日々もありましたが、日本と中国の人々がマスクを寄付したり、助け合っている記事を見て感動しました。このような時期でも社会に貢献し続ける人たちがいるのを知って、落ち込んでいた自分がとても恥かしいと感じました。

暗い日々を経験したことで、今の自分が持っているものの大切さ、命の重さ、そしてどのようなことにあっても前向きな心を持つことがどれだけ大事なのか、改めて理解できました。何事にも前向きな気持ちでこれからも努力を積み重ねていきます。

鹿児島大学3年 姜新煒(中国山東省)

コロナの影響で学校が始まるのが何度も遅延になり、ようやくオンライン講義形式の授業が始まりました。授業量が2年の時より少し多く、実験も4コマ増えました。また専門講義しかないで、テスト前に詰め込んで勉強するよりも日々の予習復習を重ねたほうが優秀な成績を取れると思います。

部活動を含む大学の生活を大いに楽しみたいと思っていた私でも、3年に入ってから少しずつ将来のことを考えなければならぬ気持ちが出てきました。鹿児島大学への留学は最初から大学院を目指しているという計画を立てていましたが周りの友達や先輩方と相談したら迷いが生じてきました。4年生になった卒業論文の作成で忙しくなるので、余裕がある3年の

うちに就職活動の流れを体験してみたほうが良いのではないかと考えました。面接の準備など体験ができる余裕があるのは3年生の今だけのようです。

鹿児島大学4年 朴珍錫(韓国)

今年も研究室が決まり、構造設計分野について毎日実験室で研究し勉強しております。どの道具がどんな時に使われ、また強度がどれくらい得られるのか等の基本知識です。この基本知識から私の研究室では鉄筋集材材に関する卒業論文のテーマが決まりました。今までなかった鉄筋集材材の接合部に関する論文テーマなので、様々な工夫が必要となり、過去の論文を読んでも応用する力を育てています。また大学院までの進学を予定しているため、大学院試験に向かって今まで習ってきた内容を復習する予定でしたが、今年もコロナの影響で試験がなくなり、今までの成績と面接で合格が決まるため面接に向けての準備が必要となり、大学卒業論文内容と大学院修論についての研究内容をしっかりと勉強します。力学に関する専門知識が求められ、これまで理論的な勉強をしてきたので、いきなり実物試験体を操るのは難しいですが、日本留学を決めて研究したかった構造設計なので、今年も一所懸命勉強して乗り越えていこうと思っています。

研究助成金進捗状況報告会

令和元年度、2ヶ年にわたる研究について助成支援するとして決定した鹿児島大学の3件と鹿児島工業高等学校の1件の研究テーマの進捗状況と、最終年度の助成金額を決定する為の報告会を4月30日開催しました。

各研究テーマの代表者から、研究も順調に経過しているとの報告がなされました。出席した役員からは「申請計画どおりいずれの研究も順調な成果が期待できそう。」と好評でした。

研究助成金成果報告会の開催

11月18日(水)、平成30年度に助成決定した5件の研究テーマのうち、選考委員から推薦のあった鹿児島大学工学系の2件、新地助教の「家畜ウイルス感染症に対する新規ワクチンの開発」、鯉坂教授の「旧薩摩藩の麓」についての



研究報告がありました。出席委員からは「身近なテーマで興味・関心が持てた」「他の学部や関連企業などとの連携を図ることでさらに進化した研究ができるのでは」等の感想が寄せられました。

鹿児島中央駅前の「若き薩摩の群像」19名全員集合

1865年春、薩摩藩英国使節団として渡欧した青年武士の内、長崎の堀孝之と土佐の高見弥一は他藩出身の理由で鹿児島中央駅前の「若き薩摩の群像」モニュメントに設置されていみせんでしたが、長年の市民の要望で今秋鹿児島市の事業で中村晋也氏制作の2体の銅像が追加されました。



事務局から

今年も新型コロナウイルスの感染拡大により、県内でも様々なイベントが中止・縮小を余儀なくされました。幸いに財団関係者には感染の影響なく、事業執行が計画通り実施できました。本格的な冬の到来を控え新規感染者の増加が懸念されます。今後とも三密(密閉、密接、密集)に充分配慮しましょう。

事務局連絡先

890-0014 草牟田二丁目二一七
米盛誠心育成会事務局 神田・水元
☎(099)226-0205
E-mail kandaa@yong-net.co.jp

